

— 資 料 —

住居デザイン基礎実習の授業内容更新に対する学生評価

本 保 弘 子 横 井 亮 子

Students' Evaluation on the Revised Contents
of the Housing Design Basic Practice Lesson

Hiroko HOMBO Ryoko YOKOI

要 旨

平成15年度の住居デザイン基礎実習については、平成14年度の学生の授業評価を基に内容を更新した。更新した授業内容に対する学生評価の主な結果は、1.新規の授業内容である『CADを利用したインテリアコーディネート』について、以前の内容より高い評価が得られた。2.『製図のための線の練習』の時間短縮に対して評価の低下はなかった。これらの結果から、今回の授業内容の更新は、意義があったと考える。

キーワード：住居デザイン Housing Design, 授業内容 Contents of a Lesson
学生の評価 Students' Evaluation,
バリアフリーデザイン Barrier-Free Design.

1. はじめに

平成15年度の住居デザイン基礎実習については、平成14年度の学生の授業評価を基に、その内容を更新した。¹⁾今回は、更新した授業内容に対する学生評価を中心として、14年度と15年度の学生評価を比較して報告する。

2. 更新した授業内容

平成15年度の住居デザイン基礎実習の授業内容は次のとおりである。

授業計画

設計製図

1) マンションの間取りと家具配置	1回
2) 設計製図のための線の練習	14年度1回 → 0.5回 に短縮
3) ※ 車椅子対応住宅の平面図	4回
4) ※ 車椅子対応住宅の断面図	1回
5) 単身者用マンションのインテリア計画 平面図	1回
6) 単身者用マンションのインテリア計画 アクソメ図	2回
7) 単身者用マンションのインテリア計画 カラーコーディネート	1回
8) 椅子の三面図	1回

製図台を使わない実習

9) ※ 車椅子で構内のバリアフリーデザインを検討する	0.5回
10) ※ ベビーカーで住環境を評価する	0.5回
11) CADを利用したインテリアコーディネート	1回 新規の内容
12) 屋内照度の測定	0.5回

実習9)～11)に関しては2～4人グループ、12)は約20人グループとした。

※はバリアフリーデザインに関する内容である。

平成14年度の製図台を使わない実習『障害者の住宅をパソコンCADで学ぶ』0.5回（バリアフリーデザインに関する内容）は学生にとっての意義の評価が比較的低かったので、新規の内容『CADを利用したインテリアコーディネート』1回に変更した。この変更による0.5回の授業時間増加分は、単調なため学生にとっての意義とレベルの評価が比較的低かった『製図のための線の練習』を授業1回から0.5回に短縮することで補った。また、バリアフリーに関する内容については、この変更により5項目から4項目と少なくなった。

3. アンケート調査の概要

平成15年度前期の住居デザイン基礎実習は、同じ内容で週2回開講の授業であった。その授業最終日である平成15年7月10日(木)と7月14日(月)に受講生を対象として、授業評価のアンケートを無記名で実施した。受講者数86名、アンケートの回収数は84であった。平成14年度のアンケートについては、平成14年7月11日と7月15日に実施し、受講者数52名、アンケート回収数51であった。

4. アンケート調査の結果

(1) 履修理由 (図1)

履修理由は複数回答で平成14年度は1人平均2.0項目、15年度は1人平均2.1項目を選択した。

「内容に関心があったから」を選択した学生が最も多く、平成14年度で62.7%、15年度では73.8%とさらにその割合が増加した。平成14年度では「将来の進路に役立つと思ったから」

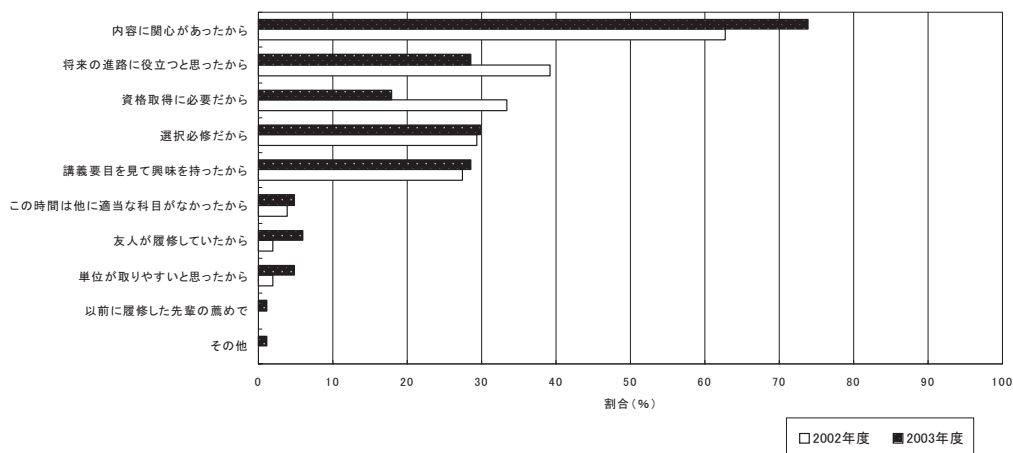


図1 履修理由

39.2%と「資格取得に必要なだから」33.3%の2項目が3割を超えていたが、15年度ではそれぞれ28.9%、17.9%とその割合が減少した。

「選択必修（基礎実習4科目から1科目以上）だから」は平成14年度29.3%、15年度29.8%と同じく約3割が履修理由にあげていた。この項目と「この時間は他に適当な科目がなかったから」や「友人が履修していたから」、「単位が取りやすいと思ったから」という消極的な理由のみ選択した学生は平成14年度で17.6%、15年度で16.7%とその割合にあまり変化はなかった。

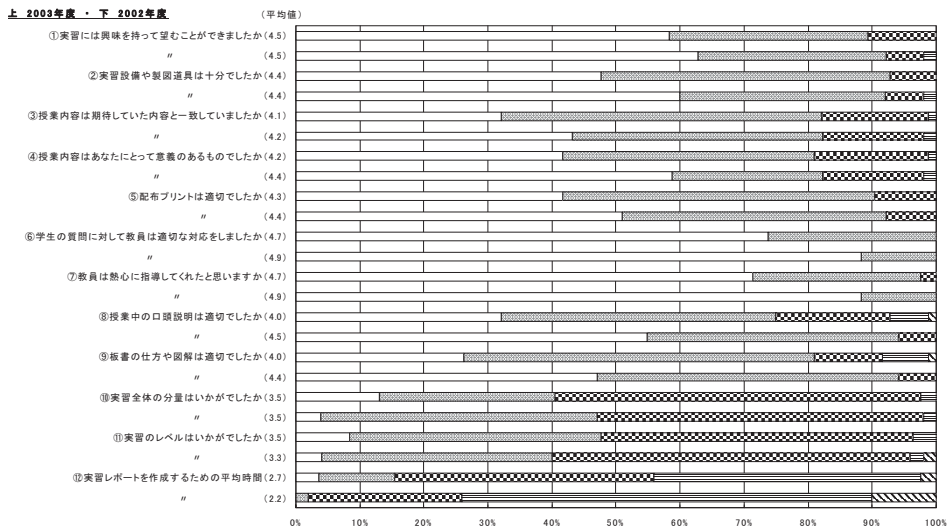
(2) 授業全体の評価 (図2)

図2①～⑨の9項目は、回答の選択肢1～5の内容が授業評価値として1.低い～5.高いの5段階評価となっている。

評価の平均値が平成14年度と15年度で同じ結果となったのは、図2①「今回の実習には興味をもって臨むことができた」の4.5と図2②「実習設備や製図道具は十分」の4.4であった。

図2③「授業内容は期待していた内容と一致」、④「授業内容の意義」、⑤「配付プリント」、⑥「教員の質問対応」、⑦「教員の熱意」の4項目については平成14年度の平均値4.2～4.9に対して15年度は4.1～4.7で、4項目それぞれについて0.1～0.2平成14年度より15年度が低い評価であった。これについては、週2回開講の受講者数が平成14年度は52名に対して、15年度は86名と約7割増加したため、学生1人1人に対するの指導、説明について、ゆき届かない部分があったと受けとめている。

図2⑧「口頭説明」と⑨「板書の仕方や図解」は、平成14年度の平均値が4.5と4.4に対して、15年度の平均値はどちらも4.0と他項目に比べて評価の低下が大きかった。受講者数の関係で、14年度は後ろ2列の席を使わなかったが、15年度は全席使用に加えて再受講の学生用補助席も使用した。実習室前方のホワイトボードは、中ほどの席でも各製図台に付いているスタンドが視線を遮るため見えにくく、後方の席はさらに見えにくい状況が評価の低下に影響している。



- ⑤ ①興味を持た ②十分 ③一致していた ④あった ⑤⑥⑦適切 ⑧思う ⑨多い ⑩難しい ⑪3時間以上
 ④ ①どちらかといえば興味を持た ②ほぼ十分 ③どちらかといえば一致していた ④どちらかといえばあった ⑤⑥⑦ほぼ適切 ⑧どちらかといえば思う ⑨やや多い ⑩やや難しい ⑪2~3時間未満
 ③ ①~⑤どちらともいえない ⑥⑦ちょうど良い ⑧1~2時間
 ② ①どちらかといえば興味をもてなかった ②やや不十分 ③どちらかといえば一致していない ④どちらかといえばなかった ⑤⑥⑦やや不適切 ⑧どちらかといえば思わない ⑨やや少ない ⑩やややさしい ⑪30~1時間未満
 ① ①興味を持たなかった ②不十分 ③一致していない ④なかった ⑤⑥⑦不適切 ⑧思わない ⑨少ない ⑩やさしい ⑪30分未満

図2 授業全体の評価

これについて、質問対応で十分に補うことが難しかった。

図2 ⑩「実習全体の分量」の評価の平均値は3.5で14年度と同じであった。しかし、「5. 多い」という回答の割合が14年度3.9%に対して15年度13.1%と増加し、分量に対する評価の個人差が広がる結果となった。図2 ⑪「実習全体のレベル」の評価の15年度平均値は3.5で14年度より0.2上がった。15年度は「4. やや難しい」と「5. 難しい」が合わせて約5割と14年度の約4割から増加し、分量に対する評価と同様にレベルに対する評価の個人差が大きくなった。

図2 ⑫「一つのレポート作成にかけた時間」については、15年度では「2. 30分~1時間」と「3. 1~2時間」がそれぞれ約4割であった。14年度の「2. 30分~1時間」が6割と比較すると、レポートに時間をかける学生の割合が増加した。

(3) 授業内容の意義 (図3)

「内容はあなたにとって意義のあるものでしたか」の回答を5段階評価の平均値でみると、14年度と15年度の共通項目11のうち図3 ①~⑤の5項目については、15年度が14年度より0.1~0.2下がった。図3 ⑥~⑨の4項目については評価が同じであった。授業全体の意義の平均値が14年度の4.4に対して15年度は4.2とやや低下したことを反映した結果となった。図3 ⑩『マンションの間取りと家具配置』と図3 ⑪『単身者用マンションのインテリア計画 平面図』の2項目は15年度の方が14年度より0.1~0.2高い4.4と4.3であった。15年度の受講生は平面計画に対する関心が高かったようだ。

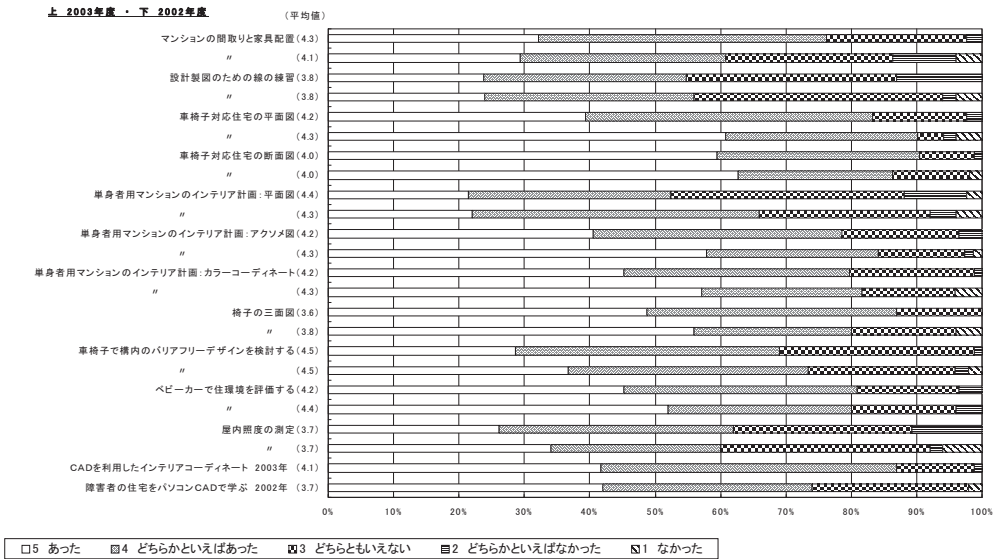


図3 授業内容の意義

図3①『製図のための線の練習』は14年度の授業1回分から、15年度は0.5回と短縮したが、短時間でポイントを押さえた練習はできたと思う。14年度と15年度の意義の平均値は3.8で同じであった。線の練習時間短縮により製図練習効果に影響はみられず、全体の評価がやや低下したなかで、意義の評価の平均値が低下しなかったことから、『製図のための線の練習』の時間短縮の変更は良かったと考える。

15年度の新規の内容である図3⑫『CADを利用したインテリアコーディネート』は、平均値4.1であった。これは、14年度平均値3.7の図3⑬『障害者の住宅をパソコンCADで学ぶ』の内容を変更したものである。全体の意義の評価がやや低下したなかで、15年度の新規の内容に対して、14年度の変更前の内容と比較して5段階評価の平均値が0.4上昇した。

14年度の学生評価をもとに15年度の実習内容を更新したことは、意義があったと考える。

(4) 授業内容のレベル (図4)

各内容項目別に、やさしさ、難しさのレベル評価を平均値で見ると、14年度と15年度共通の内容項目11のうち10について、15年度は14年度より0.1~0.4上がり、ほとんどの項目で前年度よりやや難しいと評価する結果となった。

「4. やや難しい」または「5. 難しい」と答えた学生が最も多いのは『単身者用マンションのインテリア計画 アクソメ図』で15年度平均値は3.9であった。これは14年度の平均値3.5より0.4上がる結果となった。アクソメ図のかき方のプリントを配付し、実習室前方のホワイトボードにもアクソメ図をかいて説明したが、それで理解できる学生は14年度、15年度ともに半数未満の状況であった。全体説明後、教員2名で個別対応に努めたが、15年度は受講生が14年度の7割増と多かったため、順番待ちとなった。このため、すぐにかき始めることができな

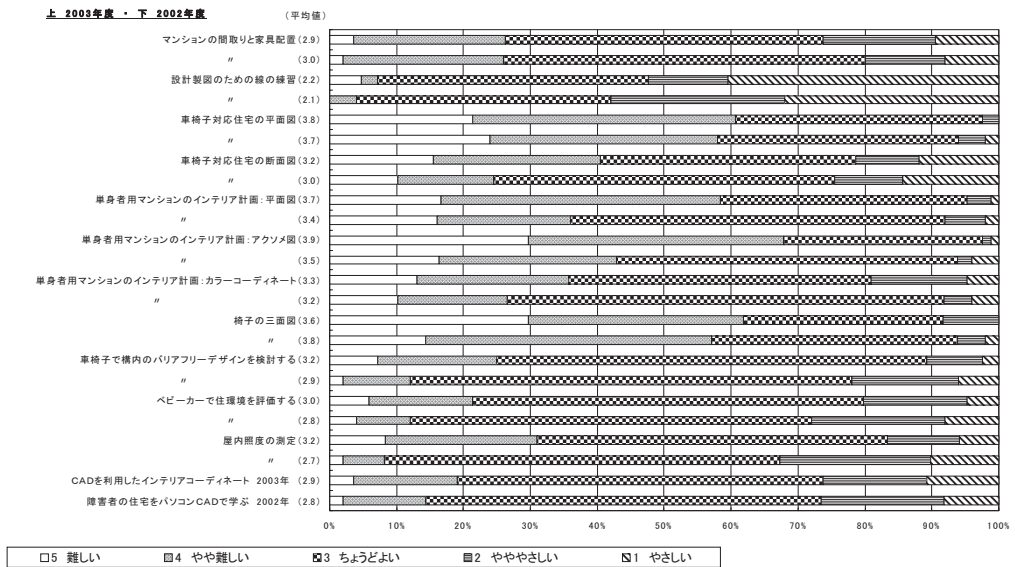


図4 授業内容のレベル

かった学生の評価は「4. やや難しい」か「5. 難しい」となったようだ。

(5) バリアフリーデザインに関する内容の評価 (図5)

15年度の授業内容更新に伴い、バリアフリーデザインに関する内容は14年度の5項目から15年度の4項目と少なくなった。「バリアフリーデザインの理解に役立ったと思いますか」の回答を5段階評価の平均値で見ると、授業全体については15年度4.2で、14年度の4.6より0.4低下し、1項目少なくした影響があるようだ。

この15年度平均値4.2は、「授業全体の学生にとっての意義」の15年度平均値と同じであった。14年度平均値4.6は、「授業全体の学生にとっての意義」の14年度平均値4.4を超えて高い評価であった。14年度のようにバリアフリーデザインの理解に役立つ評価が、授業全体の学生にとっての意義の評価を超える高い評価を得るために、バリアフリーデザインに関する内容を5項目

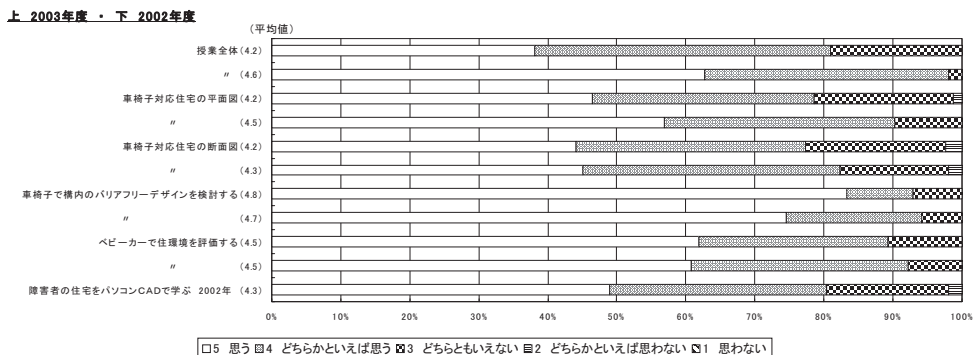


図5 バリアフリーデザインに対する理解

とする必要はないと思われる。その理由は、現代の生活課題に即して福祉的な視点を取り入れた内容は住居デザインを学ぶために必要と考えるが、受講生は主にバリアフリーデザインを学ぶのが目的ではなく、主に住居設計製図の基礎を学ぶ目的でこの授業を選択しているためである。授業全体の限られた時間のなかでは、バリアフリーデザインに関する項目は厳選すべきであると考えられる。

(6) 学生の意見と要望

アンケートの最後は「この授業に関する意見や要望があれば書いて下さい」の記入欄とした。14年度はアンケート回収数の47.1%にあたる24名が記入し、その内容すべてを前回報告した。15年度はアンケート回収数の52.3%にあたる44名が記入した。以下に15年度分の記入の全てを分類してまとめた。

1) 新規の授業内容

1. CADを使った実習がもっとしたかった。
2. パソコンを使った3Dの実習をもっとやってみたかった。実習は楽しかった。
3. CADはとてもおもしろかったです。この授業をとって良かった。でもベビーカーの実習がちょっと気まずく、メンバーが重要だと思いました。

2) バリアフリーデザイン

4. 最初はただたゞ製図をするのかと思っていましたが、車椅子など実際に使ったことで大変さを知ることができて良かったと思いました。
5. 難しかったけどいい経験になった。車椅子の大変さがすごくわかった。先生も熱心に教えてくれて良かった。

3) バリアフリーデザインと設計製図

6. 車椅子とベビーカーの実習ではバリアフリーデザインの大切さが身にしみてわかりました。私は図面をかくのがとても遅く、まわりの人がはやく進んでいたりすると、どうしても焦ってしまいました。この授業は苦手なデザインがあったり細かい作業がしんどかったけど、楽しかったです。
7. 車椅子やベビーカーの実習は役に立ったと思う。こんな経験はなかなかないので、この授業をとって良かった。製図課題が少し多かったけど、それなりにこなせた。この授業の先生には質問しやすく、丁寧に教えてもらってわかりやすかった。
8. 車椅子対応住宅の平面図がけっこう大変でした。もっと自分でデザインする機会があればいいと思う。実習はとても楽しかった。

4) 設計製図

9. 初めて製図をやって楽しかった。先生もやさしかった。
10. 製図道具を使っていろいろな図面をかくことができたので、すごく楽しかったです。いつも遅い方だったけど自分でやってできた時はうれしかったし、住んでみたいと思いました。

た。また授業を受けたいです。

11. 実習は休めないと思って休まずにがんばりました。単身者用マンションのインテリア計画カラーコーディネートが一番楽しくできました。椅子の三面図が難しかったです。先生2人ともすごく親切でわかりやすく説明してくれて授業も乗り越えられました。
12. 平面図とか製図ができた時はめっちゃうれしかった。先生がいろいろ教えてくれてやさしかった。
13. はじめて設計図をかいたので、いろいろ悩んだけど楽しかったです。
14. 住居に関することにすごく興味をもっていたので、設計とかしんどかったけど楽しかったです。
15. 少し前から住居のデザインに興味があったので楽しく授業を受けることができました。製図のはじめは写す課題が多かったので、自分で考える単身者用マンションのインテリア計画にかなり時間がかかってしまいました。でも授業内容では一番楽しかったです。
16. 初めてやることばかりで楽しかったけど、mm単位で線を測ったりかいたりするのがめんどろだった。
17. もっといろいろな図面をかいてみたかったです。この授業は楽しかったし、ためになったので良かったと思います。
18. ためになる授業でした。ずっとあこがれだった製図台も使えてうれしかったです。

5) 課題説明

19. 基本的に満足いく授業でした。しかし説明の時に後ろの席では製図台のため前が見えにくく、後で個人的に説明を聞かなければならない事がしばしばありました。45人程度の授業なので、説明の時は学生を前に集めるというのは不可能でしょうか？
20. 後ろの席では板書がほとんど見えなかった。
21. 席が後ろの方だったので、ホワイトボードが見えないし先生が指している所がわからなかった。
22. 先生の説明はわかりやすかったので楽しく受けられました。単身者用マンションのアクソメ図のかきかたが少しわかりにくかった。
23. 最初の説明が少しわかりにくかった。でも後で先生が教えてくれたのでよかった。実習は楽しかったです。
24. 白板がとても見えにくかったです。
25. 後ろの席は先生の声は良く聞こえるけど、図について説明しているときが見えにくく困った。

6) 実習のレベル

26. 難しかった。
27. 難しかったです。でも終わった時に、達成感を感じる事ができてうれしかったです。

28. 全体的に難しかったけど一つ一つできていくうちにやりがいがあった。
29. 最初は基礎で簡単だったけど、どんどん難しくなっていったいへんでした。でもやりがいがありました。教員も親切に教えてくれるし、これからの自分の将来に役立つだろうと思いました。
30. 難しくてもいつも友達に助けてもらいました。先生もありがとう。楽しかった。
31. 住居関係に興味がありました。この授業をとってもっと興味深くなりました。製図は難しかったけど楽しかったです。
32. 難しいところもいっぱいあったけど、とても勉強になりました。でも自分にデザインのセンスがあまりないことがわかってちょっとショックでした。だからこれからいっぱい勉強したいです。
33. 難しかったけど楽しかったです。
34. 楽しかった。自分の理解度が悪くてたいへんだった。
35. 全体的に授業は楽しかったです。もっと難しい図面も描いてみたいと思う。

7) 指導方法

36. わからない所も理解できるまで教えてもらって自分でやれたので良かったです。
37. とても楽しかったです。不器用な私でも先生がちゃんと教えてくださって少し自信ができました。
38. いろいろ細かい作業は大変だったけど最後までやりとげることができました。先生たちもやさしく教えてくれたので、わかりやすかった。
39. この授業はとてもおもしろかったし、先生もわからないところはわかるように教えてくれたのでやりやすかった。
40. 先生が2人しかいなくて、ききたい時にきけなくて待っている時間をもったいなく感じた。

8) その他

41. 先生がやさしくて良かったです。特に若い方の人、かなりいい先生だと思いました。
42. ふつうの授業よりがんばれました。ふだんやらない事なので、いい経験になりました。少しインテリアに興味がわきました。
43. いろいろなことが学べて楽しかったです。
44. 将来こういう仕事につきたい人には役に立ったと思う。私もだんだんと興味がわいてきました。

新規の授業内容である『CADを利用したインテリアコーディネート』について、No.2.と3.は、「おもしろかった」など課題に対してプラス評価を記入している。今回の内容については建築CADの3D機能を利用した体験的な実習にとどまるため、No.1.と2.には、CAD実習をもっとやりたかったという記入があった。意欲的なまたはパソコンが得意な学生にとっては、

今回の実習内容では少し物足りないと思えるようだ。

バリアフリーデザインに関する内容について「役立った」などプラス評価の記述は No.4.~7. の4例あり、このうち具体的な授業内容として『車椅子で構内のバリアフリーデザインを検討する』を4例、『ベビーカーで住環境を評価する』の実習を2例があげている。

設計製図についての記述は難しさを主としたものを除き、No.6~18. の13例あった。そこには部分的に設計製図の苦勞の記述がみられるものもあるが、13例すべてに「楽しかった」などプラス評価の記述があった。このうち2例が具体的な授業内容としては『単身者用マンションのインテリア計画』をあげて「一番楽しかった」などと述べている。

以上のように「良かった」などプラス評価の具体的な内容として、新規の授業内容である『CADを使ったインテリアコーディネート』と14年度と共通の内容である『車椅子で構内のバリアフリーデザインを検討する』、『ベビーカーで住環境を評価する』、『単身者用マンションのインテリア計画』の4つがあげられた。このうち新規の内容を除く3項目は、14年度もプラス評価の具体的な内容としてあげられたものであった。

課題説明に対して No.19~25. の7例の記述があり、そのほとんどが前方ホワイトボードの見えにくさを指摘した。No.19 に書かれていたように、課題説明時には、後方席の学生は椅子をもって前に移動してもらうようにすべきであった。

実習のレベルについて No.26~35. の10例の記述があり、そのうち No.35 を除く9例が「難しかった」と書いている。9例のうち8例は難しさと合わせて「勉強になった」などプラス評価を書いてくれたが、「難しかった」のみが1例あった。14年度に「難しい」は全くなかった記述である。学生の実習の様子をよく見て適切な対応に努めたかったが、14年度と比較して7割増となった15年度の受講生一人一人に対してそれが十分できなかった。個別指導に対する不満は、No.40 にもみられた。更新した15年度の住居デザイン基礎実習の内容では、2回開講の受講者数86名に対して十分な満足度が得られる指導は難しかった。

5. まとめ

平成15年度の住居デザイン基礎実習については、平成14年度の学生の授業評価をもとに、その内容を更新した。更新した授業内容に対する学生評価の結果は次のとおりであった。

- 1) 15年度の新規の内容である『CADを利用したインテリアコーディネート』について、学生にとっての意義の5段階評価平均値は4.1であった。これは、変更前の内容である『障害者の住宅をパソコンCADで学ぶ』の14年度評価と比較すると平均値が0.4高かった。
- 2) 学生の要望と意見記入欄に、「良かった」などのプラス評価の記述がある具体的な授業内容は15年度4項目あったが、そのなかに新規の内容である『CADを利用したインテリアコーディネート』が含まれていた。
- 3) 『製図のための線の練習』は14年度の授業1回分から15年度は0.5回と短縮した。しかし、

学生にとっての意義の評価平均値は14年度と15年度で変化が無く、15年度の製図課題の仕上がりにも影響はなかった。

4) バリアフリーデザインに関する内容は14年度5項目に対して15年度は4項目としたので、バリアフリーデザインの理解に役立つ事について授業全体の15年度評価平均が14年度より低下した。しかし、それは学生評価で最も重要な授業全体の学生にとっての意義の15年度平均値と同じ値であった。限られた授業時間のなかでのバリアフリーデザインに関する内容のとりあげ方としては、更新後の4項目でよいと考える。

以上1)～4)の結果から、14年度の学生評価をもとに15年度の授業内容を更新したことは、意義があったと考える。

引用文献

1) 本保弘子, 横井亮子, 住居デザイン基礎実習の授業内容に関する検討, p.121, 神戸女子短期大学論
叢 (2003)